

C-14 家事労働に従事する主婦の心理と生理 (家事労働と疲労 第2報)

大分大 藤田 美枝

1. 今までの研究方法は単なるアンケートによる意識調査にすぎなかったのに反し、この度の研究方法は意識調査を、特に心の背景となる身体的条件及び内容を分析し、総合的に精神身体医学的観点に立ち、心理と生理の動的な面を浮き出して分析してみようとした。

2. 都市辺地農漁村の主婦群(单身グループ)を対象とし、特に家事労働内容と疲労の訴えをアンケート式によって調査を行った。

3. 1) 家事労働(労働の負荷として)の状況

省かれてきている家事労働の内容種別は衣生活部門に多く、次に食、住となっている。省かれてきているものの総体は、数の上では地域的差異はあまりみられない。主婦が協力や社会的処理にゆだねないで自からおこなっているものは、準備、購入、整備の管理的なものが多い。

2) 主婦の疲労(訴え)について

(a) 身体的症状、肩こり(K.地区100%)足がだるい(H.島81%)頭が重い(K.地区70%)からだのどこかがわるい(K.地区60%)が多く訴えられている。

(b) 神経性要因、記憶力の減退(K.地区90%)を訴えている。以上の結果を括めるとK.地区の婦入層には純然たる psychosomatic factor が表われていることがわかる。

3) 作業負荷が多いための疲労か、家事労働の全労働に対する比率が多いことによる疲労なのか、その相関性をみる。